

算数科 小学校 1年

単元名 たすのかな ひくのかな
啓林館「わくわくさんすう 1」

単元の流れ（全4時間）

【第1時】（本時）

主な学習内容

たし算になる言葉のない文章題を読み、場面の様子をとらえながら立式・計算する。

「活用」の力育成のために

算数的活動を通して場面を把握し、根拠を示して説明させる。（ポイント①③）

【第2時】

主な学習内容

1つの問題からたし算・ひき算になる問題を解き、場面をとらえながら立式・計算する。

「活用」の力育成のために

演算決定の言葉に注目させ、根拠を示して説明させる。（ポイント①②③）

【第3時】

主な学習内容

加減を判断する言葉を用い、たし算になる問題・ひき算になる問題の2通りの問題作りをする。

「活用」の力育成のために

演算決定の言葉に注目させ、作問させる。（ポイント②）

【第4時】

評価テスト

単元構成の意図

本単元は、たし算、ひき算の学習のまとめの単元に位置する。習得した計算を用いて、文章や絵から、たし算やひき算が用いられるのはどんなときかを考えて、学習を進めていく。その中で、児童の主体的な判断によって演算決定や立式を行わせることがねらいである。

「たすのかな ひくのかな」の単元名にもあるように、その問題で問われているものを解決するためには、どんな演算をする必要があるのかを判断するためにポイントを踏まえて指導を行いたい。

また、楽しく場面をとらえられるように1つのお話風になっていることを活かし、自分で情報を収集し、問題を作る力を付けていきたい。さらには、場面を読み取り、計算につなげる力を一層伸ばせるようにしていきたい。

「活用」の力を育てるポイント

- ①算数的活動を取り入れながら文章を十分に読み、場面を想像して自分でたし算になるのか、ひき算になるのかを考える力を付けさせたい。
- ②今までの学習でまとめてきた加減を判断する言葉について着目したり、見付けたりしながら、考える手段としてそれを用いる力も付けさせたい。また、ブロックの操作を行う際に、ブロックの動かし方も確認し合うことで、言葉と操作をつなげて考えさせたい。
- ③どうしてたし算にしたのか、ひき算にしたのかを自分なりに根拠を示して考える力を付けさせたい。

HOME

授業展開例へ

本時の流れへ

評価問題

単元の詳細はこちら

CLICK